

ようこそ盈進の読書科へ | VOL.5



読むことは「知る」こと 書くことは「考える」こと

盈進は「平和、ひと、環境」を大切にする中高一貫の学び舎です。豊かな言語力を身につけ、確かな倫理観を養い、きらりと光る独創性に磨きをかけることを目指す「ひとづくり3教科」を学校教育の柱に据えることで、たくましく生きる力を育む教育を展開しています。中でも「読書科」はすべての学力の基盤となる「ことばの力」を培うオリジナル教科として特に中心的な役割を担います。

✧ EISHIN GAKUEN

SPECIAL INTERVIEW 2024

～未来を変える
「1冊」との出会い～

北海道大学
文学部へ進学

民宅 航平 (たみや こうへい)

2023年度高校3年生 [剣道部キャプテン]
尾道市立栗原小学校出身

2024年度「ようこそ盈進の読書科へ」の冒頭を飾る卒業生インタビューのテーマは「未来を変える『1冊』との出会い」。今春盈進高校を卒業した民宅航平君へのインタビューです。パイオニア1期生として入学した民宅君は、毎日尾道から電車通学し、剣道部と学業の両立を果たした生徒です。彼が手にしている本は、広辞苑より大きく分厚い『風の谷のナウシカ』。図書館にあったこの本から、彼の読書生活は始まりました。

◆北海道大学合格おめでとう。大学ではどんなことを学びたいと思っているの？

——— 自分が大好きな近現代の文学を研究したいです。北海道大学は最初の1年目は教養科目・基礎科目を幅広く学ぶ「総合教育部」に配属されるという特徴があり、学びのシステムが非常にしっかりしています。それから、やっぱり日本屈指の広大な敷地は魅力的ですね。日本全国から集まったいろんな価値観を持った人と出会い、大いに刺激を受けて、自分の視野を広げたいと思っています。

◆文学好き、ということは小学生の頃から本が好きだったの？

——— まったく。正直言って小学生の頃はほとんど本を読んだことがなかったです。剣道一筋だったので、小学校から帰ると稽古漬けの毎日でした。本よりもプラモデルやレゴブロックの方に興味を示していた子ども時代です。でも母がいつも本を読んでいて、それをノートに記録しているような人で…母は僕が知っている人の中で最強の人間だと思っているんですが、家では読んだ本の話をよくしてくれましたね。

◆中学生になって本を読むように？

—— はい。盈進に進学を決めた理由の1つに「読書」という授業があったのは確かです。朝読だけじゃなく、授業でも本を読むくらいですから、自然と本を手取るようになっていきました。その中でも衝撃を受けた1冊が『風の谷のナウシカ』。あつ、これです。まさにこの上下巻。もうだいぶボロボロになってますね。まずは本の大きさに驚いて。「こんな大きな本があるんだ～」と思って図書館で借りて、教室で読んでいたんです。そうしたら本当に面白くて。やっぱりナウシカは原作で読むべきです。非日常感というか、もうスケールが違います。核戦争後の世界のメタファーとも読み取れる舞台設定は、資本主義や科学技術への批判と環境問題への警鐘とも捉えることができ…宮崎駿さんすごすぎます。



まだ制服がブカブカだった1年生

◆民宅君がこの巨大な『ナウシカ』を朝読で読みふけている姿、よく覚えているよ。本があまりに大きくて、民宅君の姿が見えなくなっちゃったからね。

—— そうですね(笑)。小学生の頃には読んでこなかった本の世界に一瞬で魅了されるほどこの1冊との出会いは大きかったです。それから、本好きなクラスメイトの存在もあったように思います。ライトノベル好きな仲間がいて、めちゃめちゃ影響されましたね。好きなジャンルの本の情報交換をしたりして…ライトノベルって無料で読めるサイトがあるんです。そこにある作品をひたすら読んでいる時期もありました。クラスメイトには、自分でライトノベル的な文章を書く仲間も出てきたくらいでした。仲間の力は大きいです、やっぱり。



6年間一緒に過ごしたクラスメイトたちと

◆でも中学生の生活も部活動があって忙しかったのでは？

—— はい。でも本を読みたい気持ちがどんどん高まってきて、部活の休憩時間にも汗を滴らせながら本を読んでいたりするほどでした。そんなある時、読書の授業の中で感想文を書く機会があったたまたま手に取ったのが上橋菜穂子さんの『精霊の守り人』だったんです。これは僕に強烈なインパクトを与えた本でした。ライトノベルも楽しかったんですが、だんだん物足りなくなっていた頃でした。この本には確かな背景知識に基づく文章の強さがあったんです。圧倒的にこの世界じゃない感が出ていて、しかも文章が完璧に美しい。シリーズがたくさんあるんですが、熱中してどんどん読んでいきました。そのあとに出た『獣の奏者』も含めてどれも素晴らしい作品です。尾道までの電車の行き帰りにもずっと読んでいましたね。すごく分厚くて重たいんですが、荷物が増えても読みたい気持ちの方が強かったです。



剣道部の先輩たちに囲まれて

◆修了論文のテーマは「神話と現代文化」だったよね。

——— 洋の東西を問わず「神話」ってそれが長い歴史を経ても残り続ける理由があると思うんです。日本に住んでいるとあまり感じないのですが、世界には神様を本当に信じている人がとても多い。信じていない人の方が少数派であるくらいです。でもそこには信じるに値するだけの何かがあるのではないかと、ということに興味を持ちました。僕は哲学や心理学にも興味があつて、大学ではいろんな学びの世界に挑戦してみたいとも考えています。



3年生修了論文プレゼン

◆高校生になっても、本を読む時間はあつたの？

——— いいえ。大変でした。クラブの休みが月1回くらいで、高校3年生の8月までやっていましたから、勉強する時間の確保の方が先でした。でもそうすると国語の授業で読んだ作品や、入試問題で解いた作品などに面白さを感じる機会が増えてきました。教科書作品では特に森鷗外の『舞姫』が心に残っています。明治初期にこんなロマンチックな作品があつたなんて驚きですし、読んでいてかつこいい表現だなあとしみじみ思いました。僕は文学作品の「つくり」に興味があつて、きれいな文がどうしてきれいなのか、「読め」ば「読む」ほど、それを「書く」という所為にも関心が湧きました。伏線などの技法についても奥深さを感じてしまいます。



5年生 猛勉強中!

◆民宅君にとって本とは？

——— 本はまず、知らないことを教えてくれます。自分と違う価値観にも出合える。それから僕は本の世界には限界がないと思っています。だって今住んでいる世界とは全く違う世界にだって行けるんですよ。いろんな人の話を聞いてみたいけれど、僕たちはそれが叶わないことも多い。そんなとき、本ならいろんな人との出会いが期待できるんです。そんな風に考えると、「図書館」っていうのは本当に素晴らしい制度だと思います。自分だけでは手に入れることができない本がどこの町にもある。「図書館」も無限の空間です。もつと活用されるべきですよ。僕は本に関わる仕事、たとえば編集者になりたいと考えていた時期もありますが、人と本とをつなぐそんな仕事もいいかもしれないと今は考えたりもしています。

◆では中高6年間を振り返って、中学生のみんなにメッセージを。

——— 僕は小学生まで漫画以外の本をほとんど読んだことがありませんでしたが、中学生の時に読んだ本がきっかけで本の虜になりました。最近の大学入試ではとにかく文章を読ませようとする傾向があるので、入試に役立つのは間違いありませんし、ことばを身につけることには他者とコミュニケーションを円滑にできるという本質的な意義もあります。本を好きになるきっかけは何でもいいと思います。とにかく楽しそうな本を手にとってみるのが第一歩です。1冊の本が自分の未来を切り拓いてくれるかもしれません。6年間の盈進生活の中で、そんな1冊に出会えるといいですね。



北大受験当日の朝

◆ありがとう!北の大地でのびのびと読書を続け、人生に豊かな花を咲かせてくださいね。

幼稚園



エリック・カール『はらぺこあおむし』
まず本に穴が開いているという衝撃的な絵本
でしたね。今改めて振り返ってみるとこの本つ
ていろんな要素が盛り込まれていると思うんで
すよ。たとえば数や曜日、1日の始まりと終わり
…そんな仕掛け満載の絵本が大好きでしたね。

ターミーの BOOK HISTORY

民宅君のこれまでの読書生活の歩みをまとめてま
した。名づけて「ターミーのBOOK HISTORY」。
彼の出合ってきた本を並べると、18歳の民宅君
がどのようにかたちづくられたか、うかがい知
ることができます。

『はだしのゲン』『火の鳥』などの漫画
図書館で母が借りてきた漫画でしたが、もちろん『は
だしのゲン』は広島原爆についてのショッキングな
描写が強烈なインパクトを持ちました。それから『火
の鳥』は永遠のいのちがテーマとなっているんです
が、なんのために生きるのかという哲学的な発想を
内に秘めている魅力的な作品です。



小学校



中学入学

宮崎駿『風の谷のナウシカ』
学校の図書館で借りた本。朝読
ですつと読んでいました。原作に
しかない面白さ。



中2



ラノベ全盛時代
サイトも無限にアップ
されていくラノベを
せっせと読む毎日…



住野よる
『君の膵臓をたべたい』
これはもうラストに驚かされ
た本ですね。タイトルの
持つ意味までにつながるス
トーリーへの構造に衝撃を受
けました。どうしたらこん
な本が書けるんだろう。逆
算して構成を練っているの
かもしれない…など、僕の
想像力を大いにくすぐって
くれた本です。



上橋菜穂子
『精霊の守り人』
僕の未来を変えた1冊。



中3



高校入学

『隻腕の剣士 教壇に立つ』
剣道をやっている僕にとって心震え
る1冊です。ハードな人生に直面した
人のことばに触れる時、たいいてい
のことは辛いとは言えないんじゃないか
な、という思いに駆られます。人生を
考えさせられる本ですね。



高2



有川浩『図書館戦争』
バトルシーンがかっこいいの
もあるんですが、法律1つで
自分たちの常識が大きく左
右されることがよくわかる本
です。ストーリーの楽しさと
いうごく単純な側面と、当
たり前だと思っている常識や
社会のありかたが読み取れる
複雑な側面とが織りなす世
界観が好きでした。



高3

お気に入りのフレーズ
「いのち短し 恋せよ乙女 あかき唇 褪せぬ間に
熱き血潮の 冷えぬ間に 明日の月日は ないものを」
アンデルセン「ゴンドラの唄」。森鷗外の影響もあり、この
フレーズにたどり着きました。僕は乙女じゃないです
けど、自分が今過ごしている時間が想像以上にかげえの
ないもので、あつと言う間に終わってしまうというこ
とがよくわかる歌で個人的に好きです。シンプルに表現が
かっこいい。





作曲家 阿部海太郎さん再来校!

『私』にしか聞こえない音を、『だれか』に伝えるために

1冊の本をきっかけとしてさまざまな出会いが生まれる
盈進ドリムプロジェクト。2021年11月22日に感動的
なホンモノ講座をおこなってくださった作曲家の阿部
海太郎さんが2年後の同日、再び盈進にお越しくださ
いました。2023年大人気を博したNHK連続テレビ小説
『らんまん』の音楽も担当され、ますますご活躍中の海太
郎さん。中学生は海太郎さんが音楽を担当された舞台の
原作『モグラが三千あつまって』を全員で読んだり、『らん
まん』の放送を視聴したりするなど、今回もたくさんの学
びを重ねて、海太郎さんとの再会の日を迎えました。



©高橋マナミ

阿部 海太郎 氏 プロフィール

1978年生。幼い頃よりピアノ、ヴァイオリン、太鼓などの楽器に親しみ、独学で作曲を行うように。東京藝術大学、同大学院、パリ第八大学第三課程にて音楽学を専攻。クラシック音楽の伝統様式に着目しながら今日的な表現を追求する。コンサートの企画やアルバム制作などすぐれた美的感覚と知性から生まれる音楽表現が多方面で評価され、舞台、テレビ番組、映画等、幅広い分野で作曲活動をおこなう。過去の代表作として蜷川幸雄演出のシェイクスピア作品、長塚圭史演出作品、NHK『日曜美術館』、映画『ペンギン・ハイウェイ』など多数。

当日は海太郎さんの素敵なピアノ演奏に始まり、『らんまん』の音楽制作裏話、音や楽器についての音楽談義を聞かせて頂きました。また2年前、盈進音楽部のために吹奏楽ヴァージョンをアレンジしてくださった『夏休み』（映画『ペンギン・ハイウェイ』より）の演奏も恒例化。この曲はこれからも盈進にとって大切なプログラムになっていくことでしょう。





ちょうどNHKテレビ小説『らんまん』の放送クールが終わったばかり。盈進図書館では作品のモデルとなった牧野富太郎博士に関する書籍も数多く並んでいます。「日本植物学の父」と呼ばれ、膨大な標本・観察記録を残した牧野博士にならって、理科では中学生全員で植物図にも挑戦しました。



お楽しみの質問コーナー「教えて！海太郎さん！」も大盛況で、散会後も質問をしたい生徒が列をなすほど。海太郎さんの前でピアノを弾き、アドバイスを頂くことのできた幸運な生徒も見られました。

《生徒の感想から》

音楽部の1度目の演奏の後に海太郎さんが指導され、短時間で音が大きく変わった瞬間びっくりしました。海太郎さんが音楽部の人に伝えるとき、「1人だけ授業に遅れた感じに」というフレーズが聞こえました。その言葉を思い出しながら聞くと、静かな教室に急にドアが開いたような音の動きがイメージされ、私の想像力がふくらみました。海太郎さんの表現力がすごいなと思いました。吸い込まれるようなお話でした。 (1年生)

やっぱり私は音楽が好きだなと今日実感しました。特に好きな「ボタン」の曲を高知の民間オーケストラの皆さんが演奏する動画を見て、なんだか心にグツとくるものがありました。私は将来の夢が脳神経外科医なのですが、オーケストラの団員になる夢もいいなと思いました。新しい視点を海太郎さんにもらいました。 (1年生)

小学生の頃、盈進のオープンスクールに来ると流れていた曲、あの曲を海太郎さんが作っていたのだということを知るととても驚きました。海太郎さんがピアノを弾いてくださったとき、私はとても不思議な気持ちになりました。上手く言葉にできないのですが、世界が変わり、深い森の中に入り込んだような気分になったのです。音とは本当に人の心を動かし、感動させるものだ改めて気づかされました。 (2年生)

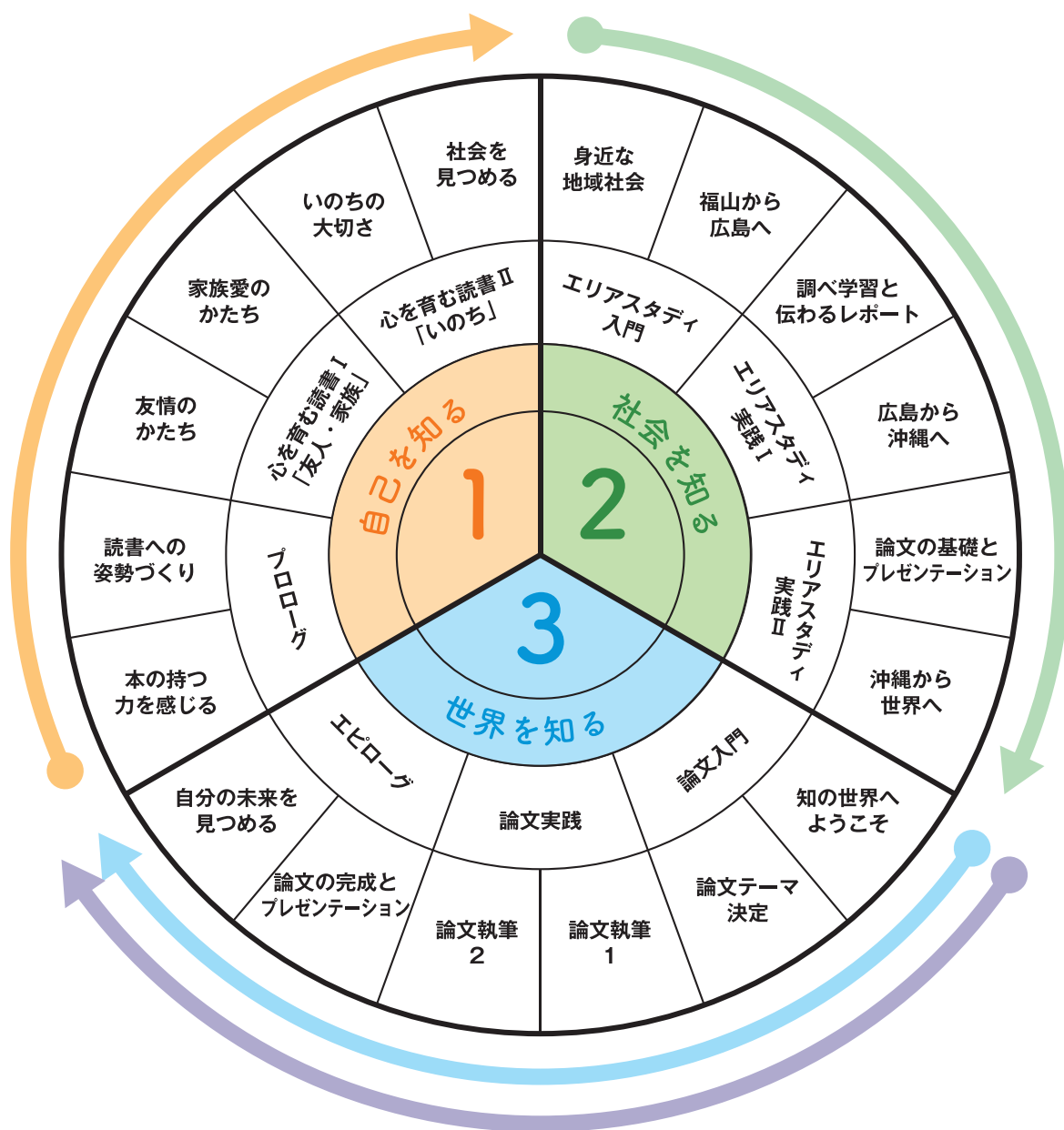
私は毎朝『らんまん』を録画して登校していたので、毎日テレビで聞いていた楽曲を海太郎さんの生演奏で直接聞いて鳥肌が止まりませんでした。どの曲も『らんまん』のどのシーンで使われていたかが分かります。頭の中でそのシーンを思い浮かべながら聞くことができ、感動的な体験でした。 (2年生)

僕達は、2年前にも海太郎さんの講演を聞きましたが、今日は過去にタイムスリップしたかのような懐かしさがありました。「私にしか聞こえない音を伝える」という今回のテーマで、海太郎さんは「音」＝「声」だとおっしゃいました。社会的弱者や少数派の声に耳を傾け、それを正確に伝えることがどれだけ大切なことか。「戦争で～万人死んだ」は「1人の死が～万回あった」ということだという海太郎さんの表現は僕にとって目から鱗でした。無機質な報道の裏には数知れない慟哭があること、今日僕にもそんな「声」が聞こえた気がします。 (3年生)

海太郎ワールドに包まれた秋の1日。盈進にアートの風が吹きました。

読書科の学び ～本と出会い、ひとを知る～

読書科の授業には各学年に「学びのテーマ」が設けられています。週1回の授業で選定図書を年間10冊以上、3年間で30冊読むことを目標にしています。3年間の読書活動の中で、前半は仲間と本を読む一体感を味わいつつ、お互いの意見を交流することで、心を豊かに育みます。また後半は、私たちが生きる社会について知り、この世界で今起きていることを見つめ、各自が考える課題を解決します。「読み、書き、伝える」活動の中から自分の生き方を見つめる教科です。



読書科3年間の学びのテーマとカリキュラム

1
年生



2
年生



2年生では沖縄についての調べ学習をおこなうため、この他にも沖縄に関する本を多数使用します。

3
年生



3年生では各自の選んだテーマに基づいて『修了論文』に取り組むため、使用する本も1人ひとり異なります。学校図書館、公共図書館の所蔵する本を自分で見つけることから始めます。



1年生のテーマ 自己を知る personal

1年生のテーマは「自己を知る」。家族や友人とのつながりを通して心の成長を遂げる主人公の姿に、自分自身を重ね合わせて読みます。さまざまな愛情のかたち、友情のかたちに触れ「かけがえのない自分」に出会うとともに、自分を取り囲む人の存在にも気づくようになります。心を育みながら本が大好きになる1年間です。



2年生のテーマ 社会を知る local

2年生は「自己」から「社会」へと視点を移し、読書活動の領域を広げます。私たちの故郷「福山」そして「広島」について知り、「平和」というキーワードを学習旅行で訪れる「沖縄」さらに「世界」に結び付けます。「地域研究」×「平和学習」が生み出すドラマチックな読書活動を展開する学年です。



3年生のテーマ 世界を知る national global

「自己」から「社会」へと視野を広げた2年間の学びを経て、3年生ではもっと広い「知の世界」での学びを体験します。自分の興味・関心のある分野からテーマを設定し、4000字以上の文章をまとめる修了論文は中学校3年間の読書活動の集大成となります。

未来を見つめる15歳へ

～ドリームプロジェクト～

世界のTOYOTA
 トヨタ自動車のプリウス開発者
 豊島浩二さんが来校！

カルビー(株)の会長兼CEOの
 松本晃さんがポテトチップスを
 たくさん持って来校して下さいました！

盈進中学校は
 1人1台のタブレット！
 読書科の授業でも
 ICTを活用します。

広島のお好み焼きの歴史を学び、
 レポート作成。学びのまとめは
 広島お好み焼き広場にて

クラス主催の
 「図書館へ行こう！
 プロジェクト」始動！

広島を舞台にした作品
 「赤ヘル1975」を読んで、
 全国の図書館に「読書郵便」
 という形でPR活動を展開。
 全国からたくさんのお返事を頂き感動！

ふたご座流星群の観察や
 節分をおこないました

読書科プレゼンツ
 『ハブレトルハブレトランをめぐる旅』
 ～松永・尾道FW～
 物語の舞台を実際に歩きました

中学校の生徒&教員で取り組んだ300冊の
 「E♥絵本プロジェクト」。
 新図書館にある絵本をオススメする冊子を作りました。
 盈進に来て下さった作家の落合恵子さんにプレゼント！
 さらに、自分たちでもオリジナルの絵本を制作しました。
 コロナ禍でも、本はたくさんのお出合いをくれました！

EISHIN DREAM PROJECT

盈進の建学の精神は「実学の体得」。社会に貢献できる人が
 持つ本当のにげん力を身に付けるために「読書科」が創設
 され、四半世紀を経ました。そこで、こうした教育理念を大切
 にしつつ、「読書科」が主体となって「未来を見つめる15歳」
 を育成するため、「ドリームプロジェクト」を立ち上げました。

「ドリームプロジェクト」では、生徒たちの読書活動をさらに
 充実させるため、読書行事や講演会を企画、また読書環境の
 整備をおこないます。生徒たちの夢の実現を後押しする、盈
 進の「読書科」。ワクワク・ドキドキがいっぱい詰まった学び
 を一緒に体験しませんか？



読書科の授業では「自己」⇒「社会」⇒「世界」と視野を広げていき、中学修了時には再び「自己」へと回帰するサイクルの読書活動を通じて「未来を見つめる15歳」の育成を目指しています。中学3年生では、興味・関心に基づいたテーマを自ら設定し、4000字以上の本格的な論文に挑戦。専門的な本を読み、自ら調べ、担当の先生の指導を受けながら半年以上かけて論文を書き上げます。主体的な学びを通して思考力を鍛えることで「21世紀型能力」の礎を築くとともに、自分のやりたいこと、なりたい姿を思い描くことができます。

2023年度修了論文テーマ例

- 描画療法の効果
- 爪と健康の関係
- 日焼け止めと環境問題
- 偏食と発達の関係
- 卵アレルギー
- 宇宙食にみる未来の食
- 水道水の安全性
- 算数嫌いと数学嫌い
- 栄養ドリンクの功罪
- 泥美容とその効果
- 畳のリラックス効果
- 冷凍食品と生活
- 速乾性インナー
- 再生医療の可能性
- 乗り物酔いの克服
- 手書きの効果
- 各国の性教育比較
- アクセントの違い
- モーツァルトの生涯と作風
- バイオミミクリーとエコミメティクス



**長寿の秘訣学び
健康的な生活を**

中学生 吉岡 璃乃 15
(広島県福山市)

中学校3年間で、様々な探究活動を行った。この1年間は「女性の長寿の秘訣」をテーマに選び、論文にまとめた。

終戦後、栄養状態や衛生環境の向上、医療技術の進歩によって、日本人の寿命は飛躍的に延びた。日本で調べると、女性が男性より長寿である要因として、ホルモンや代謝の違い、飲酒などの生活習慣の違いがあることが分かった。

さらに、沖縄県の大学で長寿を研究している先生から「もう一つの要因がある」と聞いて驚いた。人とたくさん会話をしたり、交流したりする「社会的要因」が女性の長寿に関わっているという。

私はいつまでも元気になりたいし、長生きもしたい。学んだことを生かして自分の生活を見つめ直し、健康的な高校生活を送りたいと思っている。

(読売新聞 2024年3月12日 火曜日)

芦田川の水質をより良く

中学生 杉山 功樹 15歳

この1年間で、一つのテーマについて深く追求した。僕は水質が良くないことを聞いたことがあったので「芦田川」をテーマにした。まず、河川の汚濁の原因とそれが及ぼす影響について探るために数冊の本を基に調べた。汚濁の原因の6割が家庭から出る生活排水であり、汚濁によって水鳥が上ったり、魚が死んでしまったりすることが分かった。

フィールドワークでは中国地方整備局の方に電話で質問を行った。芦田川の水質汚濁の要因は人口の増加や下水道の整備率が低いといったところがあった。また、以前よりも水質は改善傾向にあることが分かった。

全国トップクラスで水質が悪い時もあったが、いろんな人の努力があったからこそ、水質改善に向かっていると感じ、調べていくうちに知った。福山市の大切な水産資源である芦田川をより水質改善へ働き、その水質を保つためには家庭でできることからしたい。(福山市)

(中国新聞 2024年2月12日 月曜日)

追究する楽しさを感じる

中学生 高橋 実優 15歳

中学3年間の探究活動を「修了論文」にまとめた。体の先端にある爪に興味を持った私は、爪と健康の関連性に取り組んだ。

まず、数冊の本を読み、爪と健康は関係していることが分かった。爪の色が変わったり欠けやすくなることにより、体の中で起きている栄養不足や血行不良などの健康状態を知ることができるといって、爪は健康のバロメーターになっているのである。

そこで、うつ病などの心の病にもつながるストレスを、爪で解消することができないのかと思った。病院の先生に手紙を出してフィールドワークを申し込んだ。

すると、マニキュアがストレスの解消に役立っているかもしれないという事例を教えてくださいました。昔は境界線という指先がおしゃれだと思われていたからだと感じた。

ただ気分が上がるからだと感じた。

修了論文を通して、興味を持ったことを深く追究していく楽しさを感じた。このことを忘れず、いろいろなことに興味を持って学びを深め、勉強に励みたい。(福山市)

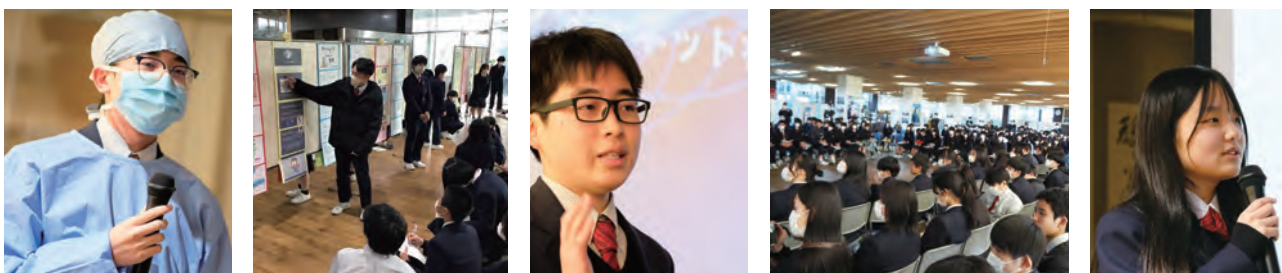
(中国新聞 2024年3月8日 金曜日)

この修了論文の執筆の際には、夏休み中に自分で計画したフィールドワークをおこなうことになっています。

自分の調べたい内容についてより高度な知識を持つ専門家や文化的・技術的な関連性が見られる企業などを訪問したり、手紙やメール等の手段でやりとりをしたり、指導教員と共に計画的な実験を試みたり…手法はさまざまですが、自分の研究を深めるために「ひと」にアプローチします。もちろん本はそれを読むことで楽しみをもたらしてくれるものですが、本から一歩飛び出して、現実社会とのつながりが生まれ、そこに「ひと」との出会いが生まれるとより豊かな喜びを生み出してくれるものです。「読書科」の目指す学びの完成形は、今その価値が目される「探究」的学びそのものだと言えるでしょう。



また修了論文を書き終えた中学3年生は、3学期に中学2年生に向けて全員でプレゼンテーションをおこないます。これから修了論文に取り掛かる後輩の心に火をつける、伝統の行事です。なお、コロナ禍でさまざまな制限がある中、本校ではICT環境の充実により、ZOOMを用いたインタビューやオンラインプレゼンテーションなど、その内容をさらに発展させながら取り組みを継続しています。



【2023年度 修了論文最優秀賞】

足立 美咲 (福山市立曙小学校出身)

「本の未来～読書の歴史、現状、そして…」



足立さんは「本の未来」というテーマのもと、「将来紙の本は無くなってしまおうのか、そしてそれは若年層の読書離れと関係があるのだろうか」という疑問を立て、検証を試みました。多くの書籍だけでなく新聞記事や出版指標年報を手がかりに、また出版に携わる専門家へのインタビューを敢行し、約15000字の論文にまとめた点が高く評価されました。

※足立さんの作品の全文は、「2023年度盈進中学校『修了論文』『読書感想文』優秀作品集」にあります。



中国新聞主催 第23回みんなの新聞コンクール

「新聞切り抜きの部」佳作・「新聞感想文の部」入賞



子どもノンフィクション文学賞受賞!

森鷗外や火野葦平、そして松本清張など日本の近代化と共に数多くの文学者を生み出したことで知られる北九州。そうした豊かな文芸土壌を継承すること、また、人々や社会への関心を持つきっかけとなることを目指し創設されたのが北九州市主催「子どもノンフィクション文学賞」です。

第14回目となった2022年度は国内外から小学生の部253編、中学生の部207編の合計460編の応募があり、中学2年生(当時)の佐伯皆人君(福山市立日吉台小学校出身)が選考委員特別賞の最相葉月賞を受賞しました。



第14回子どもノンフィクション文学賞 表彰式 2023年3月18日 北九州市文学館 (選考委員のあさのあつこさん、リリーフランキーさんのお姿も)

受賞作のタイトルは『仲間と共に～28人の努力、甲子園への切符』。2022年度甲子園出場を果たした野球部の高校3年生全員にインタビューを試み、その強さの秘密を探った原稿用紙50枚の大作です。



(2023年2月27日 卒業直前の先輩たちに受賞を報告)



取材で最もお世話になった朝生弦大キャプテン(右)と内海太陽マネージャー(左)と一緒に。

授賞式での佐伯君のスピーチ

僕の通っている広島県の盈進中学高等学校はこの夏の48年ぶりの甲子園出場を果たしました。コロナ第7波の真つ只中で、学校中が異様な熱気に包まれました。圧倒的存在感を放つ甲子園球場でプレーする先輩方の姿は今も目に焼き付いています。あの日の感動を何かに残さねば、これが僕がこの作品を書いた最大の動機です。

野球部の高校三年生28人全員にインタビュー。中学軟式野球部に所属する僕にとつて憧れの存在との延べ1000分を越す夢のような時間でした。取材ノートは高校球児の声でいっぱいです。何を書くか、何を書かないか、50枚の原稿用紙に書ききれない選手たちの思いに触れました。

今僕は、野球という競技がなぜこれほどまでに人を惹きつけるのか、そんな文章を書いていきます。僕のノンフィクション第2章です。このような素敵な賞を頂けたことが大きな自信になりました。野球部の先輩方、そして選考して下さい下さった最相葉月先生に感謝します。本当にありがとうございました。



(取材は感謝祭を終えて少し落ち着いた10月からスタート。先輩たちには受験の合間を縫って協力して頂きました。)

特別賞をくださった選考委員の最相葉月先生は、1998年『絶対音感』で第4回小学館ノンフィクション大賞を受賞。2007年には『星新一 1001話をつくった人』で第34回大佛次郎賞、第29回講談社ノンフィクション賞、第28回日本SF大賞等を受賞。そのほかにも科学技術と人間の関係や精神医学、教育などをテーマに数多くの作品を刊行する凄腕のノンフィクションライターです。読売新聞の大人気連載「人生案内」の辛口回答にも多くのファンがいることでも知られています。会場でお会いした最相先生が「よく取材したね! あっぱれ」と褒めて下さいました。



【最相葉月先生の作品紹介】



佐伯君お気に入りの一冊
『東京大学応援部物語』
(集英社)にサインをして
頂きました!

これらの本は盛進図書館みどりのECL
で読むことができます。ぜひ手に取って
みてください。

佐伯君の作品の全文は
こちらからご覧頂けます。



選考委員の先生は最相葉月先生のほか、『バッテリー』で知られるあさのあつこさんや、『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』の作者で俳優としても活躍されているリリー・フランキーさんがいらっしやいます。

最相葉月先生の選考講評(抜粋)

最相賞は「仲間と共に」28人の努力、甲子園への切符です。軟式野球部のピッチャーでもある著者が、48年ぶりに夏の甲子園に出場した同校の高校野球部員をエースから補欠、マネージャーまで全員に取材して各人を紹介した作品です。ただの人物紹介ではないのは、その人物ならではのエピソードや第三者評を交えて立体的に描き出していること。この28人のエネルギーと強い精神力があつたからこそ甲子園の扉が開いたのだと思われました。よく取材しましたね。あっぱれです。

第14回子どもノンフィクション文学賞中学生の部 選考委員特別賞最相葉月賞受賞
仲間と共に 28人の努力、甲子園への切符
盛進中学校二年 佐伯皆人

九つの人九つの場をしめてベースボールの始まらんとす(正岡子規)
今年没後二〇〇年を迎える明治の俳人正岡子規が大の野球好きだったことはよく知られている。幼名「升(のぼる)」をもじった「野球(のぼる)」という雅号を用いた子規はアメリカより伝来して間もないその球技に大いに魅了されていたようだ。野球伝来から一五〇年を迎える今年、甲子園球場のヘルメットにはそれを記念するステッカーが貼られていた。今や国民的スポーツとして老若男女から愛される野球。とりわけ高校野球に対する人々の熱量には目を見張るものがある。

二〇二二年八月七日。僕は兵庫県西宮市にある甲子園球場のアルプススタンドにいた。青い空にくっきりと浮かぶ夏雲。黒土と緑のグラウンド。そしてスタンドを埋め尽くすスクールカラーのえんじ色。強烈な色のコントラストが十四歳の僕を圧倒した夏だった。

甲子園、それは言わずと知れた高校野球の聖地である。全国十三万二二五九人の高校球児(日本高等学校野球連盟令和四年統計)がしのぎを削り、全国の高等学校三五七校(今大会の頂点目)がけて熱戦を繰り広げる。各校の甲子園のベンチ入りは一八人だから、実に〇・六七%の確率でしか立てない舞台に僕たちの先輩がいる。その夢のような光景は今も僕の脳裏に焼き付いて離れない。

(冒頭文のみ掲載)

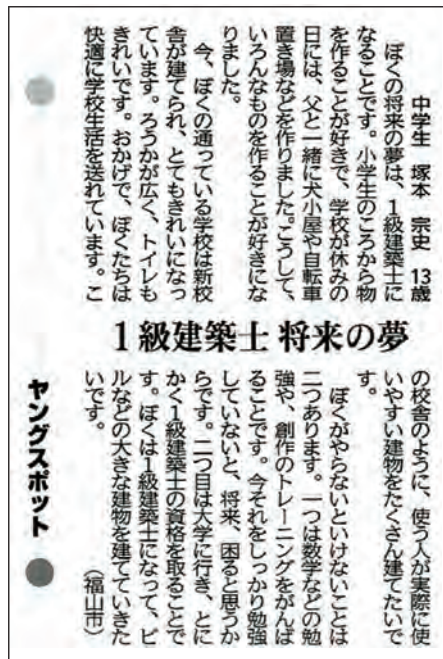


建築家 隈研吾さんに会いたい!



塚本君 (高校3年次 陸上部キャプテン)

2022年3月26日 隈研吾都市建設設計事務にて



2020年2月27日木曜日 中国新聞朝刊

中学3年間の読書・探究におけるドリームプロジェクトの取り組みを通して、自分自身を見つめ、これからの自分の夢を思い描きながら、それを少しずつカタチにしている生徒の1人を紹介します。

現在高校3年生の塚本宗史君の将来の夢は「建築士」。小学4年生の頃から漠然と思い描いてきたこの夢を中学生になっても持ち続けた塚本君は、中学1年生の探究で以下の「ドリームキャンバス」を制作しました。

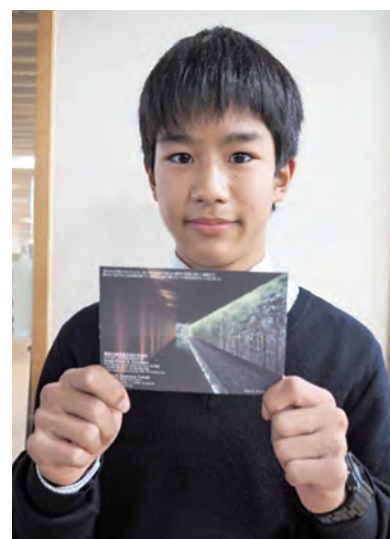


また、1年生の終わりには自身の夢について文章を書き、「中国新聞ヤングスポット」に投稿・掲載されました。中学2年生になり、将来の夢について深く考え始めた塚本君は「隈研吾さん」という世界的建築家を知ります。ちょうど開催が予定されていた東京オリンピックの目玉である新国立競技場の建設を担当された世界的建築家です。



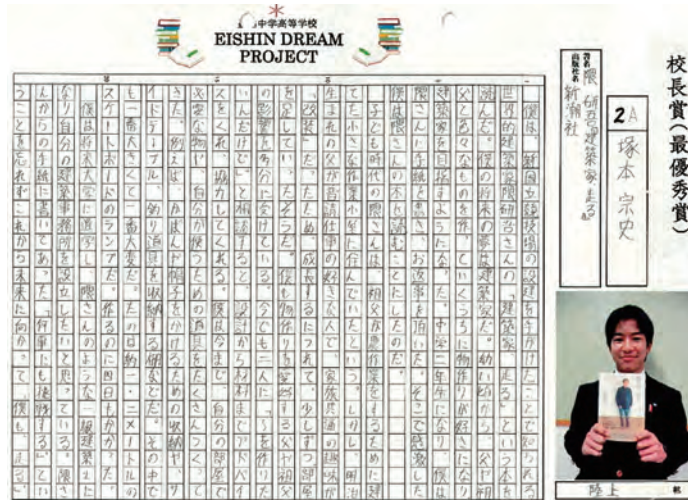
中学2年次制作 「This is My dream job」

『14歳からの仕事道』を読んで早速隈さんに手紙を書いた塚本君は、隈さんから1枚のポストカードを頂きました。隈さん直筆の激励のメッセージが書かれてあり感激。隈さんへの憧れの気持ちはどんどん高まっていきました。



頂いたカード

そこで塚本君は隈さんの書かれた『建築家、走る』という本を読み、隈さんの建築にかける熱い思いをさらに深く知ることになります。この本をもとに塚本君が書いた読書感想文は、校内読書感想文コンクールにおいてみごと、「校長賞」を受賞しました。



校内読書感想文コンクール 校長賞



校内読書感想文コンクール 校長賞



2年生の終わりに探究の授業で取り組んだ「ひと」欄作りの際にも「ビッグな建築家を目指す」と書き、中学最後の読書科の取り組みである修了論文のテーマも「建築」にすると決意。そしてやはり憧れてやまない「隈建築」について調べることになりました。論文タイトルは「建築家、隈研吾に会いたい」。隈さんの書かれた本や、隈さんについて書かれた本を大量に読みました。ちょうどその年に14歳の世渡り術シリーズに『建築家になりたい君へ』が出版され、この本も活用しました。

塚本君の修了論文は2021年度「特別賞」を受賞しました。それは同じような夢を持つクラスメイトや、テーマに共通項目が見られるクラスメイトと一部共同で執筆するという新しい探究のかたちで取り組んだ意欲的な論文だったからです。そしてついに、完成した論文を建築家、隈研吾さんに送り届けることになりました。修了論文は12月の終業式までが清書提出期限なのですが、塚本君は同じ時期に隈さんに送付。すると年末に隈さんからメールが届きました。——「塚本君の論文に心を打たれました。僕の事務所で面会しませんか。少しでも彼の励みになればと思います。」——



オミクロンの流行もあり、蔓延防止法がやっと解除された3月末、東京港区にある隈さんの事務所を訪問。この論文のタイトルに込めた塚本君の夢の1つが実現した瞬間です。

盈進中学校読書科の学びは、探究をはじめとするさまざまな学びと連動しながら、生徒1人1人の夢の実現につながるまさにドリームプロジェクト。盈進ではこのプロジェクトにすべての教員が関わり、生徒の夢を温かく応援しています。

あなたの夢は何ですか？
盈進の読書科で学び、あなたの夢と一緒に実現してみませんか？



隈さん建築の国立競技場も見学しました

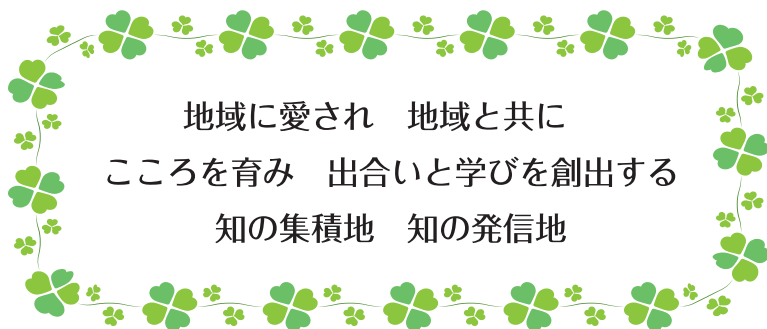


隈さんから写真集をプレゼントして頂きました

盈進図書館

みどりのECL

～ Eishin Community Library ～



2019年度、盈進中学高等学校は新校舎での学びをスタートしました。その「顔」とも言えるエントランスには、従来の約3倍の大きさの新図書館が位置づけられています。新しい本も6000冊加わり、「知の集積地・発信地」として、さまざまな場面で盈進生の学力のベースを育む読書活動を支えます。また、新図書館の建築には、伝統の「読書科」の学びを生かした工夫が施されています。あわせて生徒には1人1台のタブレットICT環境が整い、この新図書館を中心とした探究活動がさらにパワーアップ!



新図書館には盈進に通う生徒・保護者、そして将来的には地域に開けた出会いの場となるように、「みどりのECL」という親しみやすい愛称がつけました。「いーくる」という呼び名は「Eishin Community Library」の略語であり、「盈進に『来る』」という掛詞にもなっています。あわせて図書館オリジナルのマスコットキャラクター「盈図(えいと)くん」も誕生し、図書館で行われるさまざまなイベントに登場します。愛称・キャラクター名・デザインともにすべて校内の生徒による発案です。これは、「みどりのECL」の主役は生徒1人ひとりであり、生徒たちの手によってこの図書館が作られていくことを意味しています。





読書部ニュース!



2023年度の図書館研修旅行は「こども本の森神戸」(兵庫県)



2023感謝祭展示「星新一の予言～いったいどうなる!?本の未来」が大成功!



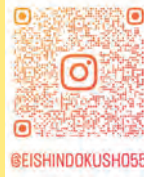
盈進に新設された「読書部」が本格的に始動し2年が経過しました!部員も増員し、自慢の図書館みどりのECLを拠点にステキな活動を展開中!ここで紹介します!

おかやま文学フェスティバルにも行ってきました!

憧れの知念実希人先生に会えた!



#盈進読書部
インスタ開設!



@EISHINDOKUSHO55



読書部の 活動内容



本のあるステキな場所へ行こう



本と関わるステキな人に会おう



本のあるステキな空間を作ろう

TO DO LIST

- 本をめぐる旅
- 読書会をひらく
- イベント企画
- オリジナルグッズ作り
- 本の作者に会いたい
- ブックハントに出かける
- 学校中に本を
- …まだまだいっぱい!



読書会で読んだ『仕事で大切なことはすべて尼崎の小さな本屋で学んだ』の舞台を訪問。店主小林由美子さんと感動の再会!



WELCOME TO
EISHIN READING CLUB★

伊藤園おーいお茶
第34回新俳句大賞

盈進中学校では毎年冬休みの課題として伊藤園の新俳句大賞に挑戦しています。これは過去の応募総数4350万句を超える、日本最大級の俳句コンテスト。第34回は応募総数は192万1404句の中から、6名の生徒が入賞を果たしました。なお以下の3名の作品は商品パッケージに掲載されています。



【後援団体賞 朝日カルチャーセンター選】※上位72作品
独りにも二人にもなりたい反抗期
3年 渡邊日柳 (福山市立日吉台小学校出身)

【都道府県賞 (広島県)】※上位312作品
十四歳の方程式に解はなし
3年 藤井大智 (福山市立御野小学校出身)

【佳作特別賞】※上位2000作品
かるがもの行進カステネットの足どりで
3年 杉山由樹 (福山市立神辺小学校出身)

第23回 みんなの新聞コンクール
新聞感想文の部



2001年にスタートした「みんなの新聞コンクール」は、子どもたちが新聞に親しみながら言葉の力や表現力、考える力を養ってほしいとの願いのもとでおこなわれている中国新聞社主催のコンクールです。(23年目の今年の応募総数9419点)3年生は読書の授業で「新聞感想文」に取り組み、自分で選んだ新聞記事について考察を加えた感想文を書きました。いずれも身近な社会問題について体験をまじえて自分なりの考えをまとめたものです。今後も本や新聞に積極的に触れ、考えるきっかけを見つけていきたいものです。



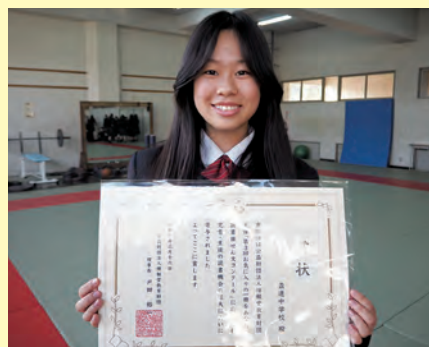
(中国新聞2023年11月16日)

- 【最優秀賞】 3年 渡邊 日柳 (福山市立日吉台小学校出身)
- 【広島県教育委員会賞】 2年 四辻 佳穂 (福山市立手城小学校出身)
- 【入選】 3年 足立 美咲 (福山市立曙小学校出身)
- 【入選】 3年 福島 琴乃 (福山市立御幸小学校出身)
- 【佳作】 3年 杉山 由樹 (福山市立神辺小学校出身)

- 「障がいで憂慮しない社会へ」
- 「学び続ける姿勢」
- 「読書の未来」
- 「ジェンダーと平等」
- 「技術革新に潜む影」

第3回 お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール

公益財団法人 博報堂教育財団主催による第3回「お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール」において、中学校1～3年生全員で取り組んだ結果、2年連続の団体賞を頂きました。このコンクールは子どもたちの読書機会の拡大を目的として2020年から開催されたもので、第3回となる今大会には455団体の応募があり、うち団体賞は全国で49団体が受賞しています。学校全員で本を読む文化を大切にしている盈進中学校にとって、うれしい入賞のお知らせです。



第14回 いっしょに読もう!新聞コンクール

2年生は日本新聞協会が主催する第14回「いっしょに読もう!新聞コンクール」に挑戦しています。これは家族や友人と新聞記事を読んで感想や意見を書くことで新聞に親しみ、社会的な出来事に広く関心持つことを目的に設けられたコンクールです。第14回となる今回は応募総数59248作品(うち中学生24775作品)の中から優秀賞(全国で中学生10名)に2年生の大石幸宜君(福山市立常金丸小学校出身)の作品が選ばれました。

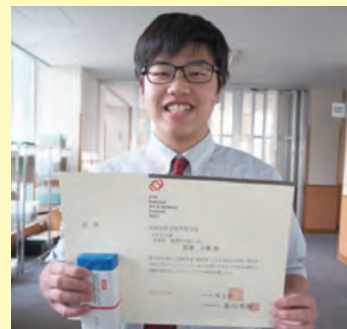
大石君は朝日新聞2023年4月3日付朝刊「刺し身『ツマ』なし訳あり」という記事を読んで次のような文章を書いています。



母は、「ツマには刺身から出るドリップで刺身が傷むのを防ぐ役目がある」「ツマを減らすと大根の消費が減り、栽培農家へのダメージも少なからずあるだろうと思う」とも言っていた。つまり、ツマを無くすと、フードロス削減できるというメリットもあるが、デメリットも同時に発生する。そのため、一くりに「ツマを入れることはフードロス削減の観点から無くした方がいい」とも言い切れない。そのため私は、「ツマの量」を調整して、刺身のバックに入れるということを提案する。「ツマ無し」「ツマ小盛り」「ツマ並盛り」など、ツマの量を変えた刺身のバックを販売し、客に、「食べられそうな量だな」と思ってもらえるように調整すれば、客のツマに対するニーズにも応えやすく、ツマのフードロス削減にもつながる。そのため私は、「ツマの量」を調整して販売することを提案する。(大石君の文章より)

第67回 全国学芸サイエンスコンクール

旺文社主催「第67回全国学芸サイエンスコンクール」中学生読書感想文の部で3年生の渡邊日椰君(福山市立日吉台小学校出身)の作品「『いいんだよ』の社会を目指して」が上位50点に授与される努力賞に選ばれました。昭和32年に創設された本賞は、「青少年の学術・科学・および文芸の振興奨励」を目的とし、今年度の応募総数は全国から81948点(うち中学生の読書感想文には12088点)もの作品が寄せられました。



盈進中学校 校内読書感想文コンクール



盈進中学校では、2020年度より校内読書感想文コンクールを実施しています。このコンクールは、朝読書や読書の授業などで読んだ本についての自分の思いや考えを文章化するもので、校長賞をはじめ各クラス担任賞さらにはクラブ顧問賞まで用意してある盈進のビッグイベントになっています。2023年度は3年生の高橋賢一君(福山市立桜丘小学校出身)の作品「科学が導く平和」(『セカイを科学せよ!』(安田夏菜著)の感想文)が、校長賞ならびに3年B組担任賞をダブル受賞し、中国新聞の「青春文学館」にも掲載されました。



多目的ホールに
全作品を掲示します

著者 安田夏菜
『セカイを科学せよ!』

「科学」は物事の本質をデータや論理で検証する行為ですが、僕たちは日常生活でその単語を名詞として使い、「科学する」と動詞で使うことはありません。この本に登場するハエトリグモやカナヘビなどの「蟲」は、科学者によって「科学され」、その習性の実態が明らかにされてきました。

主人公の中学2年、藤堂ミハイルは小学校時代

青春文学館

自然界から「共生」学ぼう

に人種的理由で差別を受けているでしょうか。ウタケます。転校してきた山ライナやミヤンマーのロアビゲイル葉奈も、初日に周囲から距離を置かれます。僕は彼らと同じくミックスルーツを持ちます。同様の立場に置かれたら、苦境から立ち直るのにはなかなか難しいでしょう。でも彼らはめげません。大好きな蟲を心のよりどころとして、たくましく生きるのです。クマノミはイソギンチャクに外敵から守ってもらいながら海水を循環させ、イソギンチャクの生活環境を整えます。こうした相互利益を生む関係を「共生」といいますが、果たして人間界ではでき

ていないでしょうか。ウタケます。転校してきた山ライナやミヤンマーのロアビゲイル葉奈も、初日に周囲から距離を置かれます。僕は彼らと同じくミックスルーツを持ちます。同様の立場に置かれたら、苦境から立ち直るのにはなかなか難しいでしょう。でも彼らはめげません。大好きな蟲を心のよりどころとして、たくましく生きるのです。クマノミはイソギンチャクに外敵から守ってもらいながら海水を循環させ、イソギンチャクの生活環境を整えます。こうした相互利益を生む関係を「共生」といいますが、果たして人間界ではでき

ていないでしょうか。ウタケます。転校してきた山ライナやミヤンマーのロアビゲイル葉奈も、初日に周囲から距離を置かれます。僕は彼らと同じくミックスルーツを持ちます。同様の立場に置かれたら、苦境から立ち直るのにはなかなか難しいでしょう。でも彼らはめげません。大好きな蟲を心のよりどころとして、たくましく生きるのです。クマノミはイソギンチャクに外敵から守ってもらいながら海水を循環させ、イソギンチャクの生活環境を整えます。こうした相互利益を生む関係を「共生」といいますが、果たして人間界ではでき

セカイを科学せよ!
高橋賢一(盈進高1年)
安田夏菜著(講談社)

中国新聞 青春文学館
2024年4月7日朝刊掲載

私の盈進読書科

～卒業生の声①～



盈進読書科は2007年から中学3年次の修了論文をスタートさせ、探究学習の先駆けとなる取り組みをおこなっています。こうした探究活動の中で2019年度修了論文において優秀賞を受賞した武田柁哉君は、高校生になってもその取り組みを継続し、自らの学びの道を切り拓いた生徒です。高校卒業時のインタビューをここで紹介します。

《2022年度高校3年生／音楽部》

武田 柁哉（福山市立御野小学校出身）

岡山大学 理学部 生物学科へ進学

❖岡山大学合格おめでとう。大学ではどんなことを学びたいと思っているの？

僕は中学3年生で出会った「コケ」の世界に魅了され、大学で本格的に研究を進めたいと考えています。現時点では「進化生態学」という分野に1番興味があるのですが、入学後はまずしっかりと生物学の基礎知識を学び、研究技法や論文を書くための英語力を身に付けたいと思います。



中学1年生入学式

❖そもそも中学3年生でどうして「コケ」の世界に出会ったの？

当時の担任の先生が「コケ」好きな理科の先生だったんです。中学2年まで環境科学研究部に所属していた僕は、もちろん生き物には興味があった方だと思いますが、正直コケには全く興味がありませんでした。でも先生に誘われてコケ探しのために学校周辺を歩いたとき、そこで初めて地面に生えているコケをルーペで見ました。コケの種類の多さやその美しさに衝撃を受け、そこから一気にハマりました。



仲間と一緒にコケを観察

❖修了論文も「コケ」がテーマだったよね。

はい。僕がコケについて興味を持った時期がちょうど修了論文に取り組む時期と重なっていて。そこから生態や文化的な面を調べれば調べるほど新しいことを知ることができてどんだんのめり込んでいく自分がありました。自分にとって初めて熱中できるものが見つかったと思えました。

❖武田君が中学3年生だった2019年度からフィールドワークの実施が加わったよね？

世界で唯一コケを専門に研究している服部植物研究所(宮崎県)の片桐所長とメールのやりとりをさせていただきました。また、秋には「キャリア教育in京都」という中3の学年行事があったので、そこで京都大学の杉山教授のお話を聞かせて頂き、個人的に連絡を取ることもできました。それから、倉敷で古書店「蟲文庫」を営んでおられる田中美穂さんという方との出会いも大きかったです。田中さんは、コケやカメヤ星座について探究され、書籍も出版されている方です。田中さんの書かれた『苔とあるく』(WAVE出版)と『ときめくコケ図鑑』(山と溪谷社)の2冊は、僕をコケの世界に導いてくれた大切な本でもあります。

❖修了論文の最後が「研究者でなくてもちょっと研究してみたいという気持ちに繋がった」という結びだけれど、本当に研究者を目指すことになるとはね!

実は6年生の最初までずっと「薬学部」志望にしていたんです。薬剤師になりたいとか、薬学を学びたいとかという気持ちよりも、とりあえず高い目標を持つために掲げていました。でも、いざ本格的に志望校を絞っていく段階になって、「本当に自分がやりたいと思っていることって何だろう」と思い至りました。好きなものを選ぶ僕を家族も応援してくれました。



修了論文プレゼン大会にて

❖武田君をそこまで魅了するコケってどんな生き物なんだろう。

コケは陸上に最初に上がったとされている生物なんです。それこそ4億年も5億年も前です。体のつくりは至ってシンプルで原始的。普通の生物だったら未発達の体ではどんどん他の生物に侵食されて負けてしまうだろうけれど、コケは違います。自分たちの生きる場所を確保してきた逞しさを持っている。たとえば、普通の生物って人間もそうですけど「保水」が大事ですよね。でもコケはたとえ水がない環境でもそれに適応して生きていくんです。

❖コケを研究することで、どんな未来が思い描けるの？

コケってまだまだ分かっていないことの多い生物なんです。でも最近の研究で二酸化炭素を多く吸収することができるということが分かってきています。これは高校生になって授業で取り組んだ「探究」の活動の中で知りました。僕の修了論文には続きがあったんです。「蟲文庫」の田中さんの所にも通い、たくさんのヒントを頂きましたし、京大フィールド研の伊勢准教授とも連絡をとって学ばせて頂きました。僕はコケの生態を環境問題からアプローチする手法で調べたんです。土がなくても生きることのできるコケを壁や屋根に植えれば冷暖房削減にもつながるかもしれないということも分かっています。今後研究が進めば人類を苦しめる病気にだって対応できるかもしれない…コケの持つ力は未知数ですし、だからこそ研究の価値が期待されています。

❖コケが未来を変えるかもしれないね。

では中高6年間を振り返って、中学生のみんなにメッセージを。

1つ言えることは、どこに自分の未来を変える「きっかけ」があるか分からないということです。僕自身が「コケ」というテーマに出合ったのもそうです。色んなことに興味を持って、まずは自分の足でそこに行ってみて、実際に触れてみる。ちょうど僕が中学3年生だった年からコロナ禍が始まり、学校生活もクラブ活動も学校の行事も全てに制限がかかっていったんですが、それももうすぐ落ち着くのではないかとされています。だから皆さんもじっとしていないで、自分の足で自由に動いてみてください。その中でピンときたものを調べ、深めていく。それから、僕は人との出会いにも恵まれていたと思います。修了論文の取り組みもそうですし、自分の進路を切り拓くという時にも、これから社会で生きていく時にも、誰と出会うか、その人とどう関わるかは本当に大事なことだと思っています。

これから僕は世界中にある色んなコケを自分の目で見てみたいと思います。本でしか見たことのなかった世界です。本と出会い、人と出会う修了論文は皆さんにとっても大きなチャンスになるはずです。

私の盈進読書科

～卒業生の声②～



《2021年度高校3年生／ヒューマンライツ部》

酒見 知花（福山市立湯田小学校出身）

明治大学 文学部
（心理社会学科臨床心理学専攻）へ進学

[私をつくった10冊]

1冊の本に人生をまるごと変えてしまう力がある——偉人たちの残したことばの中には本の持つ力について言及したものが少なくありません。盈進の読書科はそうした本の持つ力を信じ、本と出会うチャンス、本が大好きになる仕掛けをたくさん用意しています。瑞々しい感性に満ちた10代で出会った本たちは、きっと人生においてかけがえない宝物になることでしょう。盈進の読書科で学んだ「読むこと」「書くこと」を通してどのように未来を切り拓いたのか、卒業生の酒見知花さんが「私をつくった10冊」を紹介します。



①きっかけの1冊『キュリー夫人』

小学3年生の時、学校の廊下にあった本棚に伝記が数冊あり、なんとなく手に取った本でした。キュリー夫人の幼少期から亡くなるまでの人生、そして夫人亡きあとの状況まで細かく書かれていることに驚きました。彼女の偉業だけに焦点が当てられていないからこそ、人間らしさを感じて面白くて。分厚い本であったのにも関わらず、授業が始まったことにも気づかないくらい夢中で読んでいた自分がいました。それからは、ヘレンケラーやナイチンゲールなど、本棚にあった伝記を片っ端から読破し、さらに本を求めて図書室に通うように。図書室の目立つ場所に漫画で描かれた伝記はいっぱいあったのですが、図書室の一番奥、埃が舞っていそうなところにある活字だらけの伝記を「全部私が読む!」なんて意気込み、名前も知らない人の伝記まで読むことも…『キュリー夫人』は本を読み終えることの達成感と「ひと」への好奇心をかき立ててくれた思い出深い1冊です。

②読書の授業で再読し新たな発見をした『100万回生きたねこ』

保育園の時から祖母に紙芝居や絵本をよく読んでもらっていて、この本も5歳の時に1度読んだことがありました。当時は「この猫、なんども生き返って羨ましいな」なんて思っていたものの、はっきりとしたハッピーエンドで終わらなかったことが記憶の片隅に残っていました。中学生になって授業で絵本を読むことにも驚きましたが、読み直しのつもりで読んだ『100万回生きたねこ』は、「あれ、こんな物語だったけ?」と思うほど全く違う物語でした。100万回生きることよりも愛する人との1回きりの人生がこの猫にとっての「幸せ」のかたちなのかな、と感じたとき、どんなプリンセスが出てくる物語よりもロマンチックに思えて仕方なかったのです。年を重ねるごとに絵本の奥深さ、面白さが変化していくこの本は大人からも子どもからも愛される稀有な本であることは間違いありません。

③集団読書本ナンバー1『卵の緒』

さっぱりとして大胆な母親と、年齢よりも少し大人びている主人公の軽快なやりとりで繰り広げられる物語に、先生の声が聞こえなくなるくらい夢中になって読みふけっていました。「再婚」「血の繋がらない親子」「不登校」というマイナスイメージを持つ言葉ですら日常の一コマに自然に溶け込んでいて、斬新で不思議な本です。私自身の家族とも重ねてみたりしながら、本の中に出てくる母親の「大好きよ」という言葉と親子の関係性、主人公の考え方にどこか救われた気がしました。心がほかほかする気持ちになった初めての本でもあり、今でも度々読み返したいほど大好きな作品です。



④500ページを超す長編小説『赤ヘル1975』

自分だったら選ばない本を読む機会を与えてくれるところも、読書の授業のいいところ。私は中学生まで読書は好きでしたが、エッセイやノンフィクションなどの類は読まず嫌いをしていました。だからこの本はちょっと苦手なジャンルでした。とつても分厚いので、最初にみんなで少し読んでからある程度ページが進むと自分で読み、1章読むごとにシールが貼られるシステムで読みました。しかし、ここに私の負けず嫌いが発動!誰よりも早く最後まで読むぞと意気込んで読み進めました。すると苦手だったジャンルの本に、私の方からはまって読んでいたのです。もともとカーブにも野球にもそんなに興味がなかった私が、いつの間にか「鈴木!もつと打て〜!」と読み終える頃には一緒に応援していました。本がきっかけで広島という故郷を見つめ、新たな世界に出会えた気がします。

⑤重松作品と言えば『十字架』も

『赤ヘル1975』の作者である重松清さんの作品をもう1冊。この作品はいじめの傍観者が主人公の本で、当時中学生だった私には言葉も内容も重くて重くて、何度もやめようと思いましたが、私の心のどこかで「最後まで読まなければならない」と言われている気がして、1か月もかけてやっと読み切った作品です。簡単に人にオススメすることができないけれど、心から「読んでよかった」と思える作品です。小学6年生のときにドラマを見て、スクールカウンセラーになりたいと思っていた私ですが、対話を通して人が人を治療できる心理学に興味を持ち始めていた時期とも重なります。

⑥考えるきっかけをくれた『何者』

中学2年生で読んだこの本は考えるきっかけをくれた本です。身近なSNSと就活がテーマの本なのですが、Twitterのツイートを軸に臨場感のある物語が展開され、人間関係の複雑な絡みのようなものが浮き彫りになってきます。この作品を読んで、いっそう家族や友人との直接的なつながりを大切にし、SNSとの付き合い方を考えるようにもなりました。



⑦ときには息抜き 楽しみの本は七月隆文作品

中学3年生で『君にさよならを言わない』を手にとってから、七月隆文さんという方の作品が大好きです。だって物語が「僕には、幽霊が見える」という衝撃的な書き出しからスタートするんですよ。ある時、幽霊が見えるようになった主人公が、消化しきれなかった魂の願いを叶えていく短編集で、あまりにも無常な死というものに対して、読んでいる私が悔しくなるほどどっぴり感情移入し、泣いてしまいました。本当に切ないんですが、温かいんです。毎回、七月先生の作品はタイトルに「？」を浮かべながら読むのですが、読み終わって本を閉じ、タイトルを見たとき「ああ、そういうことか」と納得する瞬間がとても好きでした。恋愛ものはあまり読まない私ですが、七月先生の本は、土曜日の昼下がりがぐらいいから一気に読み直して、涙を流すという日が1年に2・3回あります。

⑧座右の書『生きがいについて』

高校1年生で私は、ついに自分にとってかけがえのない1冊と出合います。この本は岡山県にある国立ハンセン病療養所長島愛生園で精神科医をされていた神谷美恵子先生が書いた本です。中高6年間所属したクラブ活動での学びとも重なりますが、実際に神谷先生が読んだ本が置いてある「神谷書庫」を訪れて、彼女の人物や生き方そのものに強く心を揺さぶられました。この本は社会的弱者である人物が描かれた精神医学書ですが、神谷先生らしい言葉の紡ぎ方や着眼点は、心理学の道に進むことを決めた私にとって今も心の拠り所となる本です。

⑨心理学の名著『心の処方箋』

心理学の中でも臨床心理学を学びたいと考え始めた私は、その後この1冊を手に入れました。スクールバスで通う道中に読んでいたのですが、1章ごとのテーマが簡潔で、現代人が悩みがちで「そんなに難しく考えるな」と言われている気がして、バスの中で思わずグッと笑ってしまうほどでした。読み終わると心がスッキリした感じがするので、受験勉強の合間に読んでリフレッシュしていました。

⑩本格的な学びに触れた『児童虐待から考える』

高校3年生の時、教室の後ろにある学級文庫の中にあつた本です。受験のために手を伸ばした本でしたが、「加害者」とされる人たちの状況や関係性に目を向けると、そうした人々を救うことのできていない日本社会の問題点が見えてくるその理論に、衝撃を受けました。社会問題の根本的解決のためには多元的に物事を見つめなければならないということに気づかされ、私自身の視野がさらに広がったという実感があります。いじめや虐待、目に見えない貧困問題などの社会的問題に直面したとき、心理を学ぶことで誰かを救えるのではないかと、自分の学びへの思いを新たにしました。

●最後に酒見さんからのメッセージです。

私は高校生の後半で社会学系の本を手にとったのですが、自分で本を探すことに楽しみを感じる一方で、誰かが推してくれる本を読んでみることも必要だと感じています。中学・高校時代はどうしても忙しい日常の中で本や図書館と疎遠になったりもするので、盈進の読書科の授業や、新しい図書館の存在は貴重なものであると改めて思います。実は、大学入学前に2冊の本を読んでそれぞれ2400字のレポートを提出するという課題が出たのですが、1冊は『夜と霧』という課題で、もう1冊は自分で選んでよいというものでした。そこで私はなんと『100万回生きたねこ』を選びました。幸せの定義についてもう一度考えてみたときに、中学1年生のときにこの本を読んだ私とはまた違う私がいいたような気がします。明治大学の和泉キャンパスの図書館は非常に規模も大きく有名なので、そこで思いっきりいろんな本に手を伸ばしたいですね。そして自分が出合ったすてきな本は、一生のうちに何度も何度も読み返していきたいと思っています。後輩のみなさん、ジャンルを問わずいろんな本を読んでみてください。10冊の本との出会いが今の私をかたちづけているように、どこに自分の世界を広げてくれる出会いが待っているか分かりませんから。1つ1つの出会いを大切に、学びも人間性も豊かにしてくれる本との出会いもその1つだと思います。





「あなたが あなたで あること」

The important thing about you is that you are you.

It is true that you were a baby, and you grew and now you are a child,

And you will grow, into a man, or into a woman.

But the important thing about you is that you are you.

(Margaret Wise Brown "The Important Book")

表紙絵：2024年度高校3年生／高橋実希

裏表紙：盈進中学校読書科／はじまりの1冊

マーガレット・W・ブラウン『たいせつなこと』